

京都嵯峨

KYOTO SAGA

芸術大学

UNIVERSITY OF ARTS

広報

PUBLIC RELATIONS

VOL.10

NOVEMBER 2004

Contribution

未来への映像

京都嵯峨芸術大学造形学科メディアアート分野助教授 松本泰章

保存修復プロジェクトに想う

京都嵯峨芸術大学造形学科日本画分野教授 箱崎睦昌



News

ふしはら 森原キャンパス「うきようかん有響館」全面完成

附属図書館の開設 / 附属図書館オープニングイベント

学友会・クラブ棟完成 / 専任教職員人事 昇任人事, 新規採用人事

京都嵯峨野文化サロン

教学関係 国内外への研修旅行を実施 / 入試関係 AO入学試験報告

教育後援会総会報告等

Topics

在学生の活躍

有響館インスタレーション展

創作絵本にイラストを提供

「座ってみたい北の創作椅子展」入選

「雪のデザイン賞」奨励賞を受賞

ロゴマークと年賀状原画で入選

特別講座

観光PRとメディアの上手な使い方

ハンガリーの現代陶芸について

附属博物館

メディアアートの展覧会を開催

地域との交流

観光デザイン研究センター

わくわく芸術大学

附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」

学生の作品展を中心に開催



Information

入試関連情報

特別講座

附属博物館

学園祭

アートスペース嵯峨

大学からのお知らせ

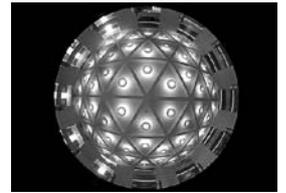
専任教員展覧会情報



KYOTO SAGA
UNIVERSITY OF ARTS

未来への映像

松本泰章 ●京都嵯峨芸術大学造形学科メディアアート分野 助教授



メディアアートの第一人者であるジェフリー・ショー氏を迎えて開催する、展覧会とシンポジウム「FUTURE VISION by Jeffrey Shaw」は、未来へ向けた京都嵯峨芸術大学の若々しく革新的な教育への方向を示す象徴として企画しました。

本学がメディアアートの分野を設けて4年目の年に、最先端を表現する、ジェフリー・ショー氏を招いての企画を開催することは、本学のみならず日本のメディアアートにとって有意義な機会になると確信いたします。本学が日本を代表するメディアアートの教育の現場として、現在の動向と今後の展開をジェフリー・ショー氏と共に探求することをめざします。

現在、映像は、芸術表現において最も注目されるメディアと言えます。電子情報技術の飛躍的な発展は、それまでのフィルムやビデオの制約を軽々と飛び越え、新しい表現をさまざまに提供しています。デジタル情報技術が、芸術におよぼす影響や可能性を、その当初から注目し、表現に取り組んできたメディアアートと呼ばれる分野は、新技術によって大きく変化する社会を、その技術そのものを用いて新しい時代の表現の可能性を追求してきました。

今回、80年代より現在にいたるまで、常に新しい映像表現の可能性を探り、ヴァーチャルリアリティーやインタラクティビティといったデジタルメディアテクノロジーを表現行為と結びつける活動を行い、世界のメディアアートの中心的存在である、ドイツ・カールスルーエ市にあるZKM /Center for Art and Mediaの映像研究所の監督を務め、現在は、オーストラリア・シドニー市の Cinema Centreの所長で、自身アーティストであるジェフリー・ショー氏を京都に迎え、2004年3月にフランス・リール市のヨーロッパ文

化首都行事の招待作家として制作発表された『クーポラ』プロジェクトの新作となる京都バージョン「LOOK UP KYOTO 2004」の発表を行います。

作品は、映像をただ一方的に鑑賞するだけではなく、鑑賞者自身が作品の中に入り込み、自らが行動し、作品の成立に立ち会う、Cinemaと呼ばれはじめた映像作品です。全天のドーム状スクリーンに、その土地で取材された天井の姿を写し出すその作品は、コンピュータによって制御された変化を伴って見るものを不思議な空間へ誘います。そこでは映像も音も共にデジタル化され、必要に応じて呼び出され、見るものと共に一時そこにあり、変化し、やがて消えていく、次世代の映像表現の可能性が美しく立ち顕われてくることでしょう。

制作は、監督を務めるシドニーのジェフリー氏、プログラミングをドイツのリンターマン氏、そして京都における取材は本学を中心としたスタッフが協力して行っています。また、同時に開催されるシンポジウムでは、作者である両氏とともに、映像の未来を歴史と空間の広い視野で研究し、常に私達を刺激する論考を展開する伊藤俊治氏を迎え、本学メディアアート分野を担当する松本泰章を加えたメンバーによる新しい映像の挑戦を試みます。

森原キャンパス有響館開設記念事業
FUTURE VISION by Jeffrey Shaw
メディアアートインスタレーション
「LOOK UP KYOTO 2004」
by Jeffrey Shaw & Bernd Linemann
会期 / 2004年11月27日(土) ~ 12月12日(日)
時間 / 10:00 ~ 18:00 月曜休
会場 / 講堂(講堂棟4階)
シンポジウム
「インタラクティブシネマの可能性」
日時 / 2004年11月27日(土) 13:00 ~ 18:00
会場 / G401教室(有響館4階)
入場無料、定員200名(要予約)
詳細およびシンポジウムへの参加申込については、企画
広報課までお問合せください。

Contribution

保存修復プロジェクトに想う

箱崎睦昌 ●京都嵯峨芸術大学造形学科日本画分野 教授



11月28日(日)を行う国際シンポジウム「東アジアにおける古建造物彩色・壁画の保存と修復」は、有響館開設記念事業の一環として開催されるが、此に至るまでの経過について少し触れておきたい。

平成13年、京都嵯峨芸術大学開学の年に、ひとつのプロジェクトが本学と元興寺文化財研究所、台湾国立文化資材保存研究中心準備所の三者による協力で立ち上がった。

研究対象は、台南市の道教寺院興濟宮及び王家宗祠の建造物装飾彩色について、技法・画材調査と保存修復方法の提案実施であった。このプロジェクトが今回のシンポジウムの中核をなしている。

この国際的プロジェクトの中で、本学は興濟宮と王家宗祠の扉絵復元模写及び技法画材調査を担当している。

従来から手掛けてきた絵画領域の表現とは異なり、建造物特有の伝統技法(豚血下地・瀝粉・桐油絵)の解明には戸惑いながらも、新たな表現領域へのチャレンジとして興味はつきない。また、顔料分析には、芸術学部開設時に導入した分析機器を活用し、科学的データの蓄積も計っている。

これら模写及び調査の報告は別に譲ることとして、台湾・韓国・中国の建造物彩色の関連調査で感じたことを記しておきたい。

強く印象に残ったことは、国情により若干差異はあるにしても、十分な調査研究がなされることなく経済効率優先の安易なるリメイクが繰り返され、大切な文化財の歴史的・芸術的価値の一面が失われ、結果的に伝統技術の継承も難しくなっていることである。

過去の歴史的遺産の中には、その地域固有の時代を超えた民族の英知が結実している。

このことを十二分に理解し、その継承と再生を計る努力が必要ではないかと強く考える。

わかりやすい具体例としては、絵具がある。現在も日本画で使用される天然岩絵具や有機顔料のような伝統的絵具の元は中国にある。しかし、その中国でさえも、絵画表現において伝統的絵具の使用が消えた時期があり、まして多量に絵具を必要とする建造物彩色においては簡便で耐久性も高く廉価な化学合成顔料やペンキのような化学塗料に変わってしまっている。このような実態からも、確した保存修復の理論構築や模写を通しての伝統技術の発掘・継承が何如に大切なことであるかを改めて実感した。

最後になるが、今回のシンポジウムでは、学生の制作した2面の扉絵(興濟宮「尉遲恭」桐油絵、王家宗祠「宮女」膠彩画)を展示し、台湾・韓国・中国・日本の4カ国5名の講師による講演、「建造物彩色・壁画をどうまく今日的課題」と題したパネルディスカッションの2部構成をとる。

第1部の講演では、今回初めて中国から蘇伯民講師を招聘し、敦煌壁画に使用された顔料の時代的変遷について講演していただく予定である。また、第2部では、保存修復の問題点を明らかにし、今後の有り様を探ることが主たるテーマとなるが、本学観光デザイン学科の山村高淑助教授に参加いただき、ヘリテージツーリズムの観点から文化財の活用方法についての提言もいただく。

このシンポジウムが、海外との交流・連帯を深め、今後の保存修復事業に少しでも寄与できればと願う。皆様の御参加を期待している。

森原キャンパス有響館開設記念事業 国際シンポジウム
「東アジアにおける古建造物彩色・壁画の保存と修復」
日時 / 2004年11月28日(日) 9:30 - 17:00
会場 / G401教室(有響館4階)
入場無料、定員200名(要予約)
参加申込・詳細は企画広報課までお問合せください。

森原キャンパス「有響館」全面完成

完成記念式典・尊像開眼法要

今夏、本部キャンパスから2004年5月に竣工しました森原キャンパス「有響館」への附属図書館の移転作業を行い、10月1日(金)より開館いたしました。

これによる有響館の全面完成を記念して、10月16日(土)に森原キャンパス「有響館」完成記念式典ならびに大本山大覚寺、片山宥権門跡院下のご導師により嵯峨天皇・弘法大師の尊像開眼法要を、有響館4階のG401教室にて執り行いました。

当日は、各界より約130名のご参列をいただき、尊像開眼法要、坂口博之理事長と三好郁朗学長からの挨拶、門川大作京都市教育委員会教育長のご祝辞、有響館の設計・建築業者への感謝状の授与、仏師の長谷法寿氏による連続記念講座を経て、学生情報フロア(同館2階)でのレセプションに至るまで終始和やかな雰囲気の中、開催させていただきました。

この完成記念式典を期に、施設の一般開放、生涯学習講座の開講、各種講演会・イベント等を通じて、地域の文化拠点となることを願っております。



連続記念講座「京の美意識」

森原キャンパス「有響館」開設記念事業のひとつ、連続記念講座「京の美意識」を、完成記念式典・尊像開眼法要に引き続いて実施しました。

第1回目となる今回は、「京の仏像」と題して、G401教室へお祈りした嵯峨天皇と弘法大師の尊像を制作された、仏師の長谷法寿氏を講師に迎え、仏像の歴史的変遷や素材・技法の流れなどを細やかにわかりやすく講じていただきました。

講座終了後も聴講者から多数の質疑が挙がるなど、好評のうちに第1回を終えることができました。



以降の開講スケジュール

第2回『京人形』2004年12月11日(土)
講師 / 面屋庄甫氏 京人形作家

第3回『京の織』2005年1月22日(土)
講師 / 北村武資氏 「羅」「経錦」重要無形文化財保持者

第4回『京の染』2005年2月26日(土)
講師 / 森口邦彦氏 京友禅作家

第5回『京の祝事』2005年3月26日(土)
講師 / 源田善朗氏 元:源田紙業株式会社社長

第6回『京の着物』2005年4月23日(土)
講師 / 羽田登氏 京友禅作家

第7回『京の笑』2005年5月21日(土)
講師 / 茂山あきら氏 大蔵流狂言師

第8回『京の舞』2005年6月25日(土)
講師 / 藤間堪祐悟氏 舞踊家

詳細・申込については、企画広報課 TEL. 075 864 7859 までお問合せください。

附属図書館の移設



今夏、本部キャンパスから森原キャンパス「有響館」への移設作業を行っていた附属図書館ですが、2004年10月1日(金)に開館することができました。

美術やデザインを中心とする芸術分野と、観光学に関する分野等の書籍約10万冊を、有響館1階と地下1階の2フロアにわたって配しています。さらに、以前は書庫に所蔵していた書籍でも直接手にとって見ることができるようになりました(貴重本は除く)。

また、2階へと吹抜けになっている、自然光豊かなスペースには、新たに児童書コーナーを設けて、国内外の絵本やヤングアダルト書籍(主に中学生以上を対象とする分類)等を多数取り揃えました。いずれ、本学の在学生や卒業生がつくった絵本等が並び、子どもたちの目に触れることを期待します。

なお、一般の方への開放は、現在、貸出等の制限を設けておりますが、今後は、児童書コーナーでイベントを開催するなど、あらゆる世代に対応した大学附属の図書館となるよう計画しています。



大学報告

附属図書館オープニングイベント

有響館に附属図書館児童書コーナーを開設したオープニングイベントとして、オーストラリアから作家のエミリー・ロッダ氏を迎えて講演会を行うほか、オーストラリアの絵本展示を行います。(後援:オーストラリア総領事館、オーストラリア政府文化機関豪日交流基金)

エミリー・ロッダ氏講演会

「読書の必要性:何故この時代に本と図書館が大切なのか?」



日本でも既に220万部を超えるヒットを放った児童書「デルトラ・クエスト」シリーズの著者であるエミリー・ロッダ氏は、代表作「リンの谷のローワン」シリーズでも有名なオーストラリアの人気児童文学作家です。彼女の著作は、子どもでも読みやすいシンプルでしっかりとした話運び、テンポの良い展開、本格的な謎解きなど、長編の読

書を手苦とする小学生から大人まで楽しめる本として、欧米アジア諸国で話題になっています。

日時 / 2004年11月13日(土)14:00~

会場 / G401教室(有響館4階)

参加無料(申込不要)。なお、講演会参加者の中から抽選で30名の方にエミリー・ロッダ氏の著書を進呈します。

オーストラリアの絵本展示

オーストラリアの大手出版社「Random House Australia」が出展するほか、多民族国家であるオーストラリア独自の観点から、異文化共存の素晴らしさを子どもにもわかりやすく伝える個性溢れる作品を多数展示する予定です。

会期 / 2004年11月13日(土)~19日(金) 9:00~18:00(日曜休、初日13:00~、最終日17:00迄)

会場 / 学生情報フロア(有響館2階) 各イベントの詳細は、附属図書館(TEL. 075 864 7875)までお問合せください。

大学報告

京都嵯峨野文化サロン

旧嵯峨御所大本山大覚寺と本学が連携して、嵯峨野の伝統や魅力を探り、現代人の美意識に合った新しい文化や芸術を発信していく催し「京都嵯峨野文化サロン」の第三回企画を、10月2日(土)、大覚寺にて実施しました。

来年が、古今和歌集と新古今和歌集の完成からそれぞれ1100年、800年の記念の年にあたるため、「京の美意識を創り出した古今和歌集と新古今和歌集にみる雅の世界」をテーマとし、講演に園田学園女子大学教授の福嶋昭治氏を、歌と演奏に阿武野逢世氏、他の皆様を迎え、参加者120名の中、盛会に終えることができました。

「古今集の和歌、平安時代の和歌」と題した福嶋氏の講演は、和歌を一味違った角度から捉えたユーモア溢れる内容で、参加者からは「わかりやすく楽しみながら聞けた」という感想が多く聞かれました。阿武野逢世氏らの歌と演奏は、和歌を現代的な曲にのせて詠う珍しい試みでしたが、古の雰囲気を残す大覚寺と音楽とが一体となり、意外さと同時にとても新鮮なものが感じられました。

今後も、伝統文化を継承しつつ日本人の美意識を探りながら、皆様に喜んでいただける秋の恒例行事にしていきたいと考えております。



大学報告

学友会・クラブ棟完成

第1グラウンド東側に今春から建設中であった学友会ならびに各種クラブの活動拠点となる新棟が、このほど完成しました。名称を「学友会・クラブ棟」とした地上2階建ての建物には、学友会室や各クラブの部室のほか、会議室、倉庫、シャワー室等を設置しています。



大学報告

専任教職員人事

昇任人事(芸術学部教員)

下記の教員が、それぞれ昇任されました。(文部科学省による8月審査を経て、2004年4月1日に遡及して昇任)

所属	氏名	昇任後
造形学科	三宅章介	教授
観光デザイン学科	山村高淑	助教授

新規採用人事(事務職員)

下記の職員が2004年11月1日付けにて着任されました。

所属	氏名	役職
総務部総務課	森野茂	係長

入試関係

AO入学試験報告

今年度の入試より、全学部・学科で新たにAO(アドミッションオフィス)入試を導入し、このほど実施しました。

観光デザイン学科は、そのカリキュラムの独自性から、2日間の体験授業の中にフィールドワークを設定し、実際に現地インタビューしたり、自分で感じたことを作品等にまとめ発表するプロセスを経験していただきました。その2日間を通して、コミュニケーション能力や発想力、行動力・積極性などを総合的に判断することができたと思われます。

造形学科と短期大学部では、2日間の分野別体験授業を経て、さらに後日のレポート作成や作品制作という課題にチャレンジしていただきました。通常の実技試験中心の入試や一般大学等の面接のみ・短期集中型のAO入試とは違い、本学のAO入試はかなりのロングランであるのは、本学の教育システムを十分理解した上で、入学してもらいたいとの趣旨によるものです。

AO入試で合格となった受験生には、さらに入学のための準備プログラムという課題に挑戦していただきます。

受験者にとっては、このような至れり尽くせりの入試制度ではありますが、これも担当教員の教育に対する意欲と努力により成り立っているといっても過言ではありません。十分なコミュニケーションをとるAO入試。そのプロセスを越えた入学生のさらなる成長に期待したいと思います。



画像:2004年8月1日(日)～3日(火)開催のオープンキャンパス風景

教務関係

国内外への研修旅行を実施

美術研修ならびに総合プロジェクトとは、国内外の芸術や文化に直接触れることによって、本学で得た知識と理論を検証し、より広い視野を身につけて学習の意欲を高めることを目的とした科目です。

今年度の海外美術研修では、かねてから本学と交流のあるエディンバラ美術大学(スコットランド)のサマースクールに2004年7月24日(土)から16日間かけて15名の学生が参加したほか、8月25日(水)からはインド・スリランカへ26名の学生が研修に向かいました。

また、国内美術研修として9月13日(月)から開講した「京都の工芸-伝統と今」では、授業の相互提供について交流のある北海道東海大学から6名の学生も参加し、フィールドワーク等を行いました。

総合プロジェクトでは、8月26日(木)から12日間、イタリア～フランスの主要美術館や歴史的建造物をまわり、欧州の都市観光について学びました。

教育後援会報告

総会報告等

2004年6月6日(日)に教育後援会役員会が実施されたほか、7月4日(日)には総会が行われました。

総会では、平成15年度決算と監査結果、平成16年度事業計画と予算について大学から説明を行い、この総会において教育後援会の承認を得ました。また、北村正己学生部部長より学生生活の実態や就職状況についての報告がなされるなど、大学を取り囲む社会状況や本学の今後について、さまざまな情報が交わされました。

また、7月22日(木)には新旧役員歓送迎会が、9月11日(土)には地区別保護者懇談会(大阪)が、それぞれ行われました。

在学生の活躍

有響館インスタレーション展

2004年9月25日(土)から10月4日(月)の10日間、森原キャンパス有響館において、芸術学部造形学科彫刻分野4回生によるインスタレーション展を開催しました。

彫刻分野では、日常の学修成果を披露する機会として、毎年、大覚寺境内で野外インスタレーション展を行っていますが、今回それと並行して、有響館を利用した展示が新たに企画されました。

屋外大階段を楽譜に見立て音符を配列した作品など、自然豊かな美しい景観と有響館の特徴であるガラス張りの開放的な造りを利用した作品約15点が、来館者の目を楽しませていました。



創作絵本にイラストを提供

短期大学部専攻科デザイン専攻2回生の石原佳奈さん・岡山智子さん・曾我郁代さんがイラストを担当した絵本がこのほど完成し、京都市内の観光案内所などで無料配布されました。

これは、京都市内の広告会社が企画した「創作・京の一寸法師」という物語で、地元企業による後援のもと、京都・嵐山地域の新名物となって地域発展の一助となればと出版されたものです。



在学生の活躍(受賞)

「座ってみたい北の創作椅子展」入選
中札内美術村(北海道)主催による公募展「座ってみたい北の創作椅子展2004」に、芸術学部観光デザイン学科4回生の大西健三さんの作品「現代から開放 - そして調和」が入選されました。

この公募展は、十勝地方にある同美術村の雄大な自然の中に置いて座ってみたいと思う椅子を全国から募集したもので、審査後は実作が広場に展示され、訪れる人々を楽しませていたもようです。



「雪のデザイン賞」奨励賞を受賞

雪の科学館(石川県加賀市)主催の「第3回雪のデザイン賞」で、短期大学部専攻科デザイン専攻2回生の遠藤愛実さんの作品「雪町」が奨励賞を受賞されました。

雪や氷の美しさをデザインとして暮らしの中に取り入れようという趣旨のもと開催されたこの公募に、遠藤さんは雪の結晶型になぞらえた架空の町をデザインした地図を出品し、奨励賞に輝きました。

ロゴマークと年賀状原画で入賞

神戸市のあじさいホールが同ホールのロゴマークを募集し、専攻科デザイン専攻2回生の貞本なみさんの作品が優秀賞を受賞されました。

また、「第2回 Van fu賞2005・年賀状原画コンテスト」において、貞本さんが出品

した酉のイラストが入賞し、原画を使った年賀状が制作され販売されることになりました。



特別講座

「観光PRとメディアの上手な使い方」

2004年7月13日(火)に住宅正人氏(岡山市経済局商工観光部主任)を迎えて、芸術学部観光デザイン学科主催による特別講座を実施しました。

“ちくわ”でつくった笛の演奏者として、そのユニークさがたびたびテレビ等でも紹介される氏から、自治体における観光PR戦略と、メディアの視点に立ったパブリシティにうまく取り上げてもらうためのテクニックを講義していただきました。

「ハンガリーの現代陶芸について」

現代陶芸の盛んな国・ハンガリーから作家のラズロ・フェケテ氏を迎えた特別講座(短期大学部美術学科陶芸標準コース主催)を2004年10月12日(火)に実施しました。

ハンガリーにおけるやきもの文化や、その背景をスライドレクチャーしていただき、学生たちに未知の視点を提供しました。

附属博物館

メディアアートの展覧会を開催

2004年9月19日(日)~9月30日(木)に「Secret Poem」展を附属博物館において開催しました。

作者の意図によって展示された“物”と眼鏡型のディスプレイに流れる“映像”を重ねて観るという、一風変わったこの展覧会は、(株)島津製作所が開発した透過型ヘッドマウントディスプレイ「データグラス」の芸術的利用を試みる企画として、以前から本学の教員と学生が研究に取り組んでいるものです。



地域との交流

芸術学部4回生6名が今春起上げたサークル「創作団にほ」による、京都市立嵐山小学校を会場とした展覧会が、9月7日(火)~15日(水)に行われました。美術館等とは違う展示のあり方や作品との対峙を考えて実施されたこの企画に、子どもたちからは大変な好評を得たとのことです。

観光デザイン研究センター

わくわく芸術大学

三重県立みえこどもの城(松阪市)において、本学の教員と在学生がこどもたちに本格的な美術作品づくりを教える「わくわく芸術大学」を月に1回のペースで実施しています。

これは、本学の観光デザイン研究センターが受託した企画で、仕掛け絵本づくりやコマ撮りによるアニメーションづくり等、多岐にわたる内容を提供し、参加したこどもたちに美術の楽しさを伝えています。

附属ギャラリー 「アートスペース嵯峨」

学生の作品展を中心に開催

附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」では、2004年7月から10月にかけて、芸術学部日本画3回生展、日本画4回生展、油画3回生展、短期大学部日本画専攻科展、陶芸染織専攻科展、専攻科ドローイング展、イラストレーション標準コース前期習作展、活き粋倶楽部展を開催しました。

なかでも社会人入学者による「活き粋倶楽部展」は、“社会人入学者同士の親睦を図り相互研鑽することで大学生活を有意義に、同時に一般学生との交流を深めることを目的として”催され、好評のうちに終了しました。

また、8月・9月には学芸員資格取得のための実習(芸術学部のみ)を実施しました。

入試関連情報

いよいよ本格的な入試シーズンが到来します。12月18日(土)には本学において入試直前講習会や相談会を開催し、これから受験を控えているみなさんの実技・小論文対策をバックアップします。

各種入試は右記のとおりに実施します。なお、詳細については入試課までお問合せください。

TEL075 864 7878(直)

FAX075 881 7133

nyush@kyoto-saga.ac.jp

特別講座

今年度後期には、以下の特別講座を開講します。(内容を変更・中止する場合があります。) お問合せ・お申込みは教務課まで。TEL075 864 7867(直) kyomu@kyoto-saga.ac.jp

日時	講座名	講師	会場	対象
10/12(火)16:00~	自作およびハンガリーの現代陶芸について	Lasz b Fekete氏	G302教室	在学生
10/27(水)16:00~	エディンバラの美術教育とアート&デザイン	Fiona Mathison氏	AVホール	在学生、一般
11/下旬 16:00~	未定	高嶺格氏(予定)	AVホール	在学生

京都嵯峨芸術大学 2005年度入学試験		
推薦	11/2(火)	本学・岡山
センター試験利用	1/15(土)16(日)	各地指定会場
一般(前期)	1/25(火)	本学・東京・岡山
一般(後期)	2/26(土)	本学
特別(前期)	11/2(火)	本学
特別(後期)	1/25(火)	本学
京都嵯峨芸術大学短期大学部 2005年度入学試験		
自己推薦	10/24(日)	本学
推薦	11/1(月)	本学・岡山
自己表現	12/12(日)	本学
一般(前期)	1/24(月)	本学・東京・岡山
一般(後期)	2/27(日)	本学
特別(前期)	10/24(日)	本学
特別(後期)	2/27(日)	本学

試験種別、試験日、試験会場の順に記載 AOA試は実施済み

附属博物館

第7回企画展「嵯峨からの発信」

芸術や情報の発信拠点として活用していく森原キャンパス「有響館」の開設を記念し、本学の所在する嵯峨野の歴史と、そこから発信された文化や芸術を再確認する企画展を開催します。

嵯峨の地は、平安京以降、都の西方に位置する景勝地として多くの天皇や貴族たちに愛され、洛中とは一味違う文化が花開きました。それら各時代に嵯峨の地から発信された多様な文化を一堂に集めて展示します。

会期...2004年10月16日(土)

~2005年1月10日(月)

時間...10:00~18:00

休館...毎月曜日(祝日の場合翌火曜)

年末年始、その他大学行事日

お問合せ...TEL075 864 7852(博物館)

museum@kyoto-saga.ac.jp

学園祭

嵐芸祭「KYO」

4回生まで全学年が揃って初めて迎える学園祭(嵐芸祭)が、11月21日(日)・22日(月)に行われます。メインに「ゆるら帝国ライブ」や「吉本お笑いライブ」を実施するほか、恒例の学内公募展「嵐展」、各クラブ・サークルのイベント、模擬店、フリーマーケットなどを企画しています。詳細は学生課までお問合せください。

TEL075 864 7872(学生課)

gakuse@kyoto-saga.ac.jp

アートスペース嵯峨

11/4(木)~11/22(月)

「YOUバックアートコンペ作品展」

11/25(木)~12/8(水)

「伊勢信子退職記念展」

12/10(金)~12/22(水)

「第3回マイカメラ・マイスタイル・マイフォト展」

1/11(火)~1/15(土) 予定

「観光デザイン学科ドローイング展」

詳細は学術推進課までお問合せください。

artspace@kyoto-saga.ac.jp

大学からのお知らせ

例月法要

有響館竣工にあたって、大本山大覚寺より寄贈いただいた嵯峨天皇と弘法大師のご尊像をG401教室(有響館4F)にお祀りしており、月に1回(15日または21日)例月法要を営んでいます。

これからの日程としては、11月15日(月)15:00~、12月21日(火)14:00~に予定しています。学園関係者は、ぜひ、ご参加ください。

専任教員 展覧会情報

10/16~10/31	第31回創画展	東京都美術館	土手朋英、他 日本画
10/17~10/22	二科・ハワイ作家合同展	ニールズプレイズデルセンター(ハワイ)	入佐美南子 油画
11/2~11/14	第31回創画展	京都市美術館	土手朋英、他 日本画
11/6~11/7	ホテル美術館 stay with art2004	HOTEL TPO NT(大阪)	倉山裕昭 混合表現
11/16~11/28	第31回創画展	愛知県美術館ギャラリー	土手朋英、他 日本画
11/23~12/4	吉水絹代展	ギャラリー (京都)	吉水絹代 染織
11/30~12/12	スケッチ展	ギャラリーα(京都)	黒川彰夫 洋画
12/1~12/12	第89回二科京都展	京都市美術館	黒川彰夫 洋画、入佐美南子 油画
12/13~12/18	個展	Cubic Gallery(大阪)	日野田崇 陶芸
1/24~2/5	「アートカクテル」展	山脇アートギャラリー(東京)	宇野和幸 油画
1/26~1/30	個展	京都文化博物館(5階)	北村正己 日本画

会期、展覧会名、会場、出品者の順に記載。なお、内容は変更される場合がございますのでご了承ください。非常勤教職員の情報は本学のウェブサイトをご覧ください。

京都嵯峨芸術大学広報

第10号

2004年11月8日発行

編集 京都嵯峨芸術大学 企画広報室

発行 学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学

〒616 8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地

TEL075 864 7859

FAX075 882 7770

http://www.kyoto-saga.ac.jp

info@kyoto-saga.ac.jp

印刷 大光印刷株式会社